

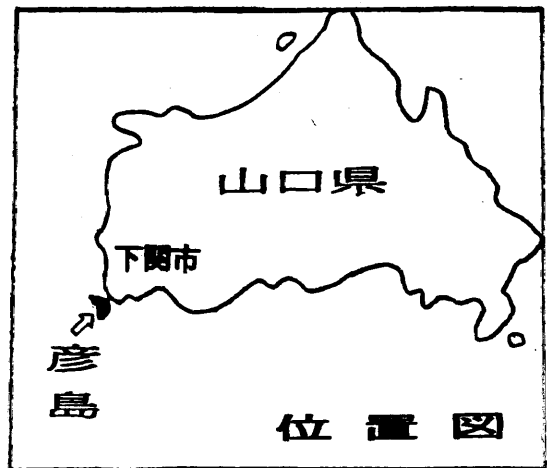
あまのこう
発信できる海士郷のくらしづくり
～次代に伝える私たちの活動～

彦島漁協婦人部
部長 廣田郁江

1 地域と漁業の概要

私たちが所属している山口県下関市彦島漁協は、関門海峡と日本海に囲まれた島で、下関とは対岸に位置しており、現在は関彦大橋によって陸続き同然になっています。下関周辺では沿岸漁業の歴史の古い組合で、海士郷地区を中心に発展してきたところです。

現在、組合員70名、その内50才代以下が5割以上を占める比較的后継者の残っている組合です。漁種は小型底曳網、吾智網、建網、イカ巢網、ワカメ養殖等ですが、漁船漁業、特に小型底曳網の盛んな所です。



2 組織及び運営

彦島漁協婦人部が創設されたのは昭和29年で、現在、婦人部員は51名です。彦島漁協は水揚げされた魚はすべて漁協婦人部が唐戸市場で、朝早くから販売する「生産者立ち売り人制度」を続けてきており、私たちの労働時間は早朝2時頃から昼近くまで魚販売に従事し、それから帰って家事、睡眠という生活時間の特殊性もあり、婦人部活動が続けるには障害の多い環境でしたが、発足から40年間、唐戸市場での販売活動とバランスをとりながら、女性の社会参加や漁家経営の改善、浦の活性化をめざした活動を力を合わせて続け、若妻が多い漁協婦人部をつくってきました。

3 実践活動課題選定の動機

私たち婦人部による水揚げ漁獲物販売活動の歴史は戦前からと古く、女性の努力やパワーに頼るところが大きく、「漁家経営」に果たす女性の役割は重要なものがあります。また、海士郷地区の男たちは昼過ぎから翌朝方2時頃まで漁に出かけるので、防犯・防火等地域活動も女性の肩にかかってきます。漁村特有の「漁師のどんぶり勘定」の風潮や地域を守る活動は女性が中心にならざるを得ず、その取り組みを話し合いました。

また、先進蓋井島漁協婦人部との交流や国税局の立ち入り調査を受け、青色申告の必要性を痛感、「経営改善」について考えるようになりました。唐戸市場での売上げを増やす方策や経営を引き継いでくれる子供たちへの浦の地域教育、仕事場である海の資源保全や美化活動、「販売活動」を行う市場のよりよい条件づくり等みんなで検討し、取り組み始めたのです。

4 実践活動の状況及びその成果

(1) 「漁師の経営」改善に取り組んで

私たち婦人部では平成3年度から、「漁師のどんぶり勘定」改善の学習を始め、「自分の手で申告」を目標に、とにかく領収書を受領保管し、販売を終えた後、必ず記帳という日課を続けてきました。わからないところや疑問なところは、唐戸市場は私たち婦人部が必ず集うので、教えてもらったり、励まし合ったりで、良い情報交換の場となり、また競争心もあり、講師を招いた学習の場を婦人部で開催したりと納得の行く学習を積み重ね、現在ではほとんどの人が自らの手で青色申告ができるまでになり、経費の節減等の経営改善や女性の退職金積立の検討もしております。

計画的なくらしづくりでは12月にはサラリーマン並のボーナスが出せる積立貯金にも取り組み、また、冬場は海が荒れ、休漁が続きますが、婦人部では夕方5時から10時まで一日5時間家計を助けるアルバイトを行い、収入の安定化を図ってきました。私自身、これから老後の準備のための生活設計の必要性を感じており、平成8年度も「漁家経営セミナー」を開催し、学習会を続けています。

平成5年、「毎週土曜日を定期休漁日に」の運動に一早く取り組み、特に第2土曜日は漁具を海からあげ、資源を保護する「海の休日」にしました。

若者も女性も休日にはデートや買い物、家族で出かけたり、また、日頃の寝不足を補う寝だめ等の休養に当てたりと、以前には考えられなかったような自由な時間をエンジョイしています。

(2) ふるさとの漁や浦文化をつたえる活動

私たち婦人部は、下関農業改良普及センターの「漁村高齢者活動促進事業」の導入もあって、住んでいる海士郷地区の民話や漁業、浦の歴史、生活行事、そして、名人技等を若い世代に伝える良い機会になると海士郷の生活誌づくりに積極的に取り組むことにし、婦人部役員、OB、若妻の他に青壮年部、地域の自治会等にも働きかけ、編集委員を選出しました。何度も集まって編集作業を続けてきました。海士郷の青年や若妻たちが婦人部のOBの方や高齢者から昔のくらしや漁業、伝わる民話を聞き取り、また、原稿にしてもらったり、私たち婦人部は活動の歴史や魚売りの苦労話を慣れない原稿にし、海士郷の人・技・幸の資源を検討し、生活誌「海士郷の漁業とくらし・海と人が織りあげたヒストリー」を完成させることが出来ました。

生活誌編集活動の中で、私たちは婦人部の40年間の歩み、豊富な人材、伝わる文化等

海士郷の独特なくらしと漁業を改めて考えることができ、「わー！私が魚を売るの」と魚売りを恥ずかしがっていた人も誇りと自身がもてたと述べています。出来上がった生活誌は地元の公民館や小学校、図書館、子供会の父兄にもプレゼントし、活用してもらっています。

生活誌の編集作業をする中で、ふるさと海士郷のことを子供たちに伝えようと「スキ、好き海士郷セミナー」を開催しました。魚料理やふるさとの歴史、漁業のことを名人達子供たちにいきいきと語り、魚の料理体験ではおおはしゃぎする子供たちと一緒に料理し楽しいセミナーとなりました。

私たち漁師にとって、海は祖先から受け継いできた職場です。その環境美化のため海岸一斉清掃にも定期的に浦ぐるみで取り組み、石けん使用運動、ゴキブリを退治する「ゴキブリ団子」づくりにも力を入れ、浦の環境づくりを進めてきました。

海士郷地区は、漁村特有の密集する木造家屋、隣接する石油タンク等特別警戒地区の指定で、県下でも早い時期の昭和47年に留守がちな男たちにかわって「海士郷婦人消防隊」を結成、消火、避難誘導、各家庭への防火指導を重点に活動しています。いざ本番の時には地元消防団にある可搬動力ポンプで出動体制がとれるよう、機械の使い方も全員がマスターし、その取り組みは「留守を守る！海士郷のウーマン消防隊」として新聞にも紹介され、てきぱきした訓練を現在も続けています。

(3) 交流で「海士郷の魅力」を発信

私たち婦人部はこれまで様々な交流を行ってきました。中でも須佐漁協婦人部とは昨年は「キラキラ浦の技交流」今年「生き粋交流」とお互いの技や活動交換を通して、漁村の女同士の励ましあいが続いています。

彦島漁協は小型底曳きで、沢山の雑魚が採れ、その活用が魚価の安定につながるということもあって、魚食普及にも熱心に取り組んできました。海士郷のくらしのカレンダーや豊かな「海士郷の海の幸旬カレンダー」を作成し活用しています。

また、得意料理「小鯛の酢漬け」「金太郎の佃煮」「海の子餃子」等を下関生改連、グリーンコープ、JAとの交流で披露し、交流会の引き受けでは「海士郷汁」「太刀魚のチーズ巻き」「ひじき飯」等の魚食普及で磨いた技で好評を得ました。今年フジテレビの「くいしん坊！万歳」にも出演し、海士郷の魅力を全国に向けて大いに発信しました。昨年の「スキ、好き海士郷セミナー」に続き農村との交流「内日里の秋探検隊」に親子で参加し、農村の自然にふれ、草もちづくりやハイキングをしながら子供たちと農業・漁業について話し合ったことは子供たちにも勉強になったようです。「馬関まつり」「下関女のまつり」「下関魚まつり」等地域のイベントにも積極的に参加し、平家踊り等伝統芸能や海産物、うに飯、海の子ハンバーグ等、魚食の技で交流の輪を広げています。

さらに今年唐戸市場と姉妹盟約を結んでいる韓国釜山の「チャガルチ市場」で働く女性と国際交流を行いました。国は違っても同じ漁村で働く女性同士、手振り身振りであらゆる漁業について交換し、平家踊りを一緒に踊り、時間のたつのを忘れるほど楽しい時をもちました。

国際交流は、その国の文化や誇りの発信が基本で、話したり、教えたりできる文化や技

を発信できる、まずはふるさと海士郷のことを良く知ることが国際交流の一步になるのだと感じ、あの生活誌を教科書として持参出席しました。

5 波及効果

こうした婦人部活動の取り組みは、

- ①「イヤー、私が魚を売の！」と言っていた若妻達に自信と誇りを育て、「販売活動」のプロ意識が生まれ、唐戸市場での職業教育につながってきています。
- ②自信をもった海士郷の技や魅力の発信は、多くの彦島漁協婦人部のファンをつくっており、交流の場も輪も大きく広がってきています。
- ③私たちの漁家経営を支える21世紀を展望した唐戸市場の「新市場開発構想」の検討も進んでおり、婦人部も検討場面に参画し、女性の立場から市場開発への提言を行っています。
- ④若いリーダーが生活改善士に認定され、私たちの活動を引き継いでくれる体制も出来てきました。
- ⑤励まし合って続けた経営改善の取り組みは100%近い「青色申告」の実施と経費節減、女性の退職金積立等の検討もすすみ、地域の男性の意識改革につながっています。
- ⑥海士郷の資源や人材の掘り起こしにより、高齢者から子供たちまで、巾広いコミュニティを育み、特に「生活誌」は独特な地域教育に活用されています。

6 今後の活動計画

若い後継者が比較的多いと言われる彦島漁協でも、今では20代の漁師は少なくなっています。販売活動や経営の近代化も必要になり、時代にあった魅力ある経営とは、どうしたらよいかをみんなで話し合い、次代を担う子供たちに様々な交流や体験の場面をつくり漁村の良さを伝えることが、後継者の確保につながってくると思います。私も色々考えましたが、息子を後継者として残しました。

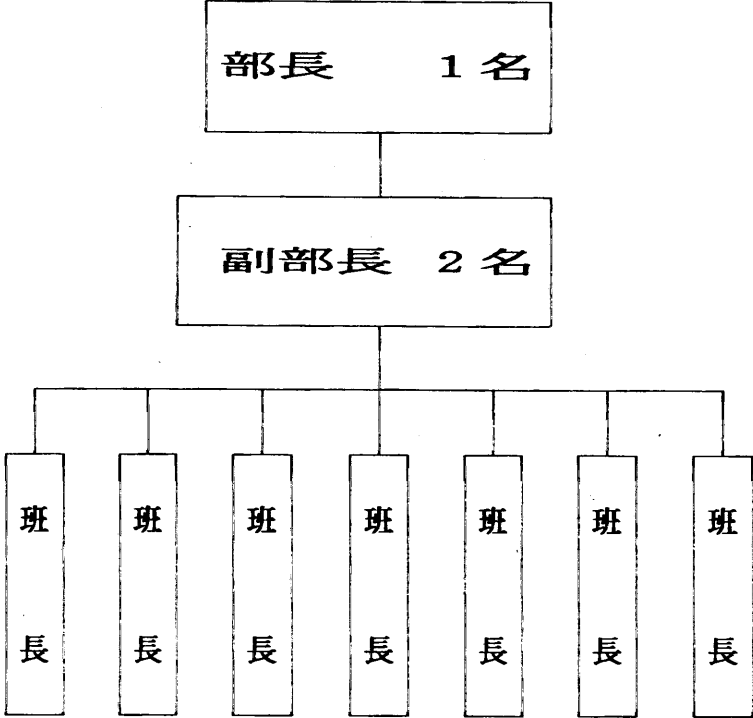
しかし、これからの漁業を考えますと、特に彦島漁協では息子と同じ、いえ、それ以上に水揚げ販売を担う若い女性の後継者対策も重要な課題です。

早朝2時からの魚の販売、昼前に帰って家事、昼食後、主人を漁に送り出し、婦人部活動と言った生活時間の特殊性は若い女性にとって抵抗もあるようです。

でも、漁獲物販売の主役は女性で「自分が値段をつけ、自分の努力やパワーが発揮」できる大きな魅力もあるのです。漁業キャリアをつみ、多様な交流によって、巾広いネットワークをつくり、若い女性が魅力を感じる「唐戸市場」の構想実現を目指して、次代へ残す美しい海と、住みよい漁師まちをつくる活動をこれからも励んでいきたいと思っています。

彦島漁協婦人部 組織図

(部員数 : 51名)



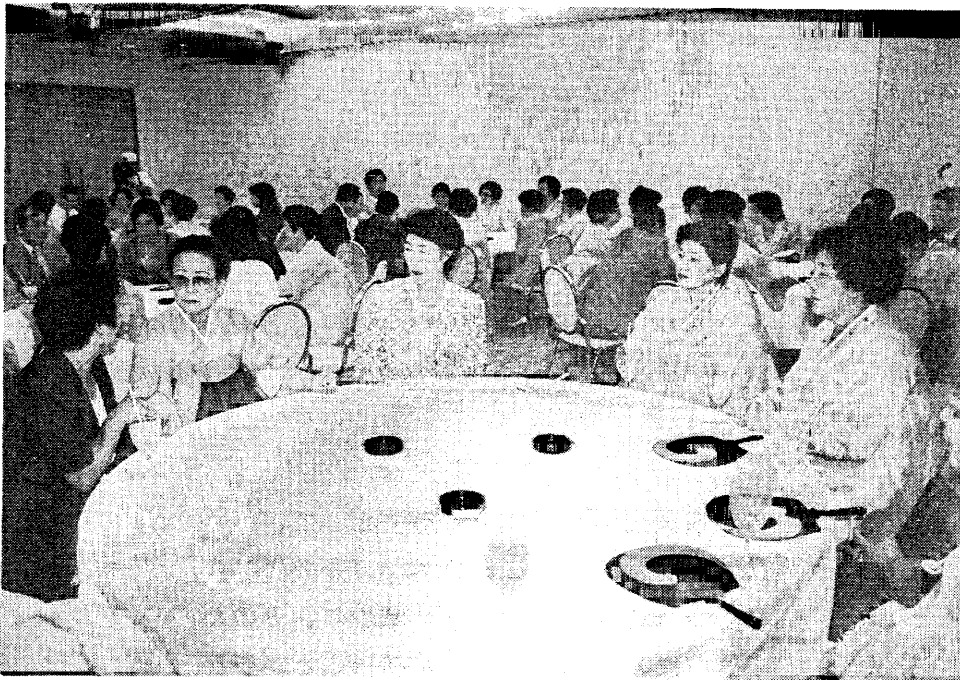
彦島漁協の概況	
組合員数	70名 (正69・准1)
漁業種類	小型底曳網・吾智網 建網・イカ巣網・わかめ養殖
8年度水揚高	3億2千万円
漁協貯金	8億7千万円
貸出金	1億1千万円



～唐戸市場の魚売りの光景～



～スキ、好き海士郷セミナー～



～「チャガルチ市場」
の女性たちとの
日韓交流～

～海士郷の漁業とくらし～
「海と人が織り上げた
ヒストリー」

